

令和7年度 学校評価の結果について

1 まとめの視点

「確かな学力の育成」「健やかな体の育成」「一人一人を大切にする教育の推進」「特色ある教育活動」に関する評価項目について、保護者・地域の肯定的な回答率の高い学校と低い学校の取組等についてまとめ、違いについて考察した。

2 令和7年度 結果より

(1) 確かな学力の育成

評価項目 I-1 学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。

保護者・地域 肯定的な回答率	学校	令和7年度の状況
95.0%	A小	<ul style="list-style-type: none"> 各教育活動のねらいを明確にし、板書や発問の工夫等のユニバーサルデザインの視点に立った授業改善の充実を図った。 学習の展開を「めあての提示」「課題解決」「振り返り」に統一するようにした。
92.7%	B中	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の作品やワークシート、まとめプリントなどを掲示することで、各教科、各学年の授業の成果を見える化をした。 生徒一人一人が発信力の個人目標を定め、その達成度を自己評価する取組をした。個に応じた適切な支援につながった。
70.8%	C中	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的な回答は93.6%であり、保護者の結果との乖離が見られる。 令和8年度は校内研修を充実させ、ICTの効果的な活用を推進できるように計画している。

(2) 健やかな体の育成

評価項目 I-5 学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。

保護者・地域 肯定的な回答率	学校	令和7年度の状況
95.3%	D小	<ul style="list-style-type: none"> 体力テスト、なわとび記録会、走るんピック（持久走記録会）等の取組を計画的に行い、年間を通して運動の日常化を図った。 一輪車遊びスペースの確保やパラリンピアンによる講演、学校歯科医と連携した保健朝会等の実施により、児童の体力向上や健康の促進に向けた意欲の向上を図った。
94.3%	E中	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が考案した献立給食を提供し、全校生徒へその解説を行うなど、給食を通じた食育を推進した。 家庭における体力向上や健康の促進のための多様な情報を生徒及び保護者に周知した。
77.4%	F小	<ul style="list-style-type: none"> 校庭で遊ぶことができない時に、運動遊びができるような工夫を検討する必要がある。 令和8年度は運動月間を設定し、運動への意欲と能力を育てる。

(3) 一人一人を大切に教育の推進

評価項目 Ⅲ-3 学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。

保護者・地域 肯定的な回答率	学校	令和7年度の状況
90.4%	E中	・誰もが学校の一員として分け隔てなく活動できるように、行事において、通常の学級と特別支援学級の交流活動を充実させるインクルーシブな教育を実践した。
88.9%	G小	・特別支援教育コーディネーターをリーダーとした「インクルーシブ会議」を常設化し、切れ目のない組織的な特別支援教育を推進した。
69.7%	H中	・特別支援教育について周知が少なかったことで、「分からない」の回答が多くなったと考えられる。 ・令和8年度は、特別支援教育の理解を推進する取組を学校ホームページに掲載し、保護者及び地域の理解を図る。

(4) 家庭・地域との連携

評価項目 V-4 学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。

保護者・地域 肯定的な回答率	学校	令和7年度の状況
99.1%	I小	・町会の方や地域の文化財を活用し、体験的な学習を充実させることで、「まちと響き合う教育」を推進した。
95.0%	B中	・ホームページや各種たよりの充実を努め、教育活動の保護者及び地域への周知を図った。
77.3%	G小	・外国につながる児童及び保護者が増加する中で、家庭と十分に連携を図っていくことが課題である。

(5) 特色ある教育活動

評価項目 V-6 学校は、特色ある教育活動への取組に関する教育を推進している。

保護者・地域 肯定的な回答率	学校	令和7年度の状況
98.4%	J小	・音楽会やジュニアバンド等の音楽活動、異学年交流活動の取組を推進した。
93.9%	B中	・各教科等で「発信力の育成」を意識した指導を継続して行い、生徒の成功体験を重ねられるようにした。
59.9%	K小	・交流及び共同学習の意義や活動の様子を、保護者へ十分に周知することができなかった。

3 今後について

- ・第三者評価委員の助言により、保護者及び地域の方々に分かりやすい文言にしたことで、「分からない」の回答が減った学校があった。学校に関する基礎的な情報を含め、情報を分かりやすく示すように指導する。
- ・学校運営協議会では、自己評価のための資料をはじめ、各種資料の検証、学校の諸活動の観察等を通じて、学校が行った自己評価の結果及び結果を踏まえた今後の改善方策について評価を行う。
- ・学校評価は、その結果の報告書の作成自体が目的化するという「評価のための評価」となることなく、今後の改善につながる実効性ある取組とするよう、発信の仕方について教務主任研等で周知を行う。
- ・通常の学級にて特別支援学級又は教室について学ぶ機会を設定し、障害者理解教育を推進する。